



新 毎 日 新 聞 日

3月17日(火)

2026年(令和8年)

発行所:東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社

UACJ地球塾



Aluminum lightens the world
アルミでかなえる、軽やかな世界

地球規模のために学び続け、考え続ける



環境問題と理想の地球について考える「#地球塾2050 Xユースミーティング」が2026年1月10日、千葉県柏市の芝浦工業大学柏中学校で開催された。参加した生徒たちは世界の現状や資源に関する話を聞いて、理想の2050年の地球の姿や、そのために今自分ができることについて考え、それぞれの言葉でまとめた。

理想の地球のために行動する 生徒たちのMOTTAI NAI宣言



#地球塾2050 Xユースミーティングに参加して、2050年の地球は遠い未来の話ではなく、今を生きる私たち一人一人の選択の積み重ねで形づくられるのだと実感した。特に印象に残ったのは、日常の消費行動や情報の受け取り方が、環境問題や社会課

題と深くつながっているという点である。私自身、まずは使い捨てを減らし、環境や人権に配慮した商品やサービスを選ぶことを意識していきたい。また、学んだことを自分の中だけで終わらせず、家族や友人と共有し、対話を通して行動の輪を広げていきたい。理想とする2050年の地球のために、学び続け、考え続け、行動し続けるユースでありたいと思った。

「大木 駿祐」

地球温暖化が進行し、大気汚染やオゾン層の破壊が問題視されている現在、誰でもこれに関心を持ち、問題視する



ことが最優先されると思う。誰もがこのことに関心を持つようにするには、情報技術の発展が欠かせないと思う。例えば、SNSを使った問いかけや、グループを作った積極的に活動することができる。しかし、誰もがSNSを使えるとは限らない。その例として貧富の差が挙げられる。貧富の差が広がってしまうと、情報伝達技術を使うことができる人は減少し、その地域の問題を様々な人に伝えることができなくなってしまう。そのため、最優先事項は「貧富の差を小さくすることだ」と思う。また、貧しい人々の介護をするために医療の発展も優先されると思う。

「大杉 遥也」

私は、今回国連広報センター、UACJの方々の話を聞

いて、国際的な地球規模の問題について自分事としてとらえ、真剣に考えている人が少ないのではないかと感じました。なぜなら私自身、この重大さは伝わっていても、どこか自分には関係がないことのように感じられてしまっているからです。この何十億人も人が生きている地球でたった一人の人間に過ぎない自分の行動でどうこうなる問題ではないと心のどこかで思っている気がします。しかし、地球規模の問題であっても一人一人がその問題に向き合うことができれば、その問題は良い方向へ進むことができると思います。ですから、まずは私自身が地球規模の問題に目を向け自分ごととして捉えられるように改めて考えてみようと思えます。

「福田 夏歩」

私は、紛争がなくなると、国々が協力し合えるようになっていてほしいと思います。なぜなら、ある程度の戦力や経済力、影響力を持っている国は、それを助け合いに使うべきだと思うからです。今の世界は、せっかく多くの人の役に立つ力を持っている国が、それを戦争等に使ってしまい、沢山の人が亡くなり苦しんでいます。自分のためだとしても、戦争は自分の

国も苦しめることを理解しなければいけないと思います。また仮に勝利したとしても、戦いを望んでいない人が亡くなるのはあってはならないことだと思えます。人の考えはそれぞれ違うのは当たり前だけれど、それを理解し合えればいいなと思いました。そのためにも、私はしっかりと選挙に行き、自分で国のリーダーを選ぶことが重要だと考えました。

「山田 果凛」

私は株式会社UACJの方々のアルミのリサイクルについての話を聞いて、理想とする2050年の地球のために自分がやるべきことは資源循環だと考えた。資源循環とは、使い終わった製品を廃棄するのではなく、資源として循環させる考え方である。資源の枯渇や廃棄物問題が深刻化する中で、サーキュラーエコノミーの実現に向けた重要な取り組みであり、持続可能な社会を目指す上で不可欠な概念だ。資源循環の例としては、牛乳パック・ペットボトルやアルミ缶などの分別、エコバッグやマイボトルの利用、古着や中古品の活用などが挙げられ、これらは私達でも行えることである。このような小さなことを積み重ねることで、理想とする地球を作ることができるのではないだろうか。

「山廣 豪」